

## 今月のトピック

しっかり病害虫対策して  
栽培のスタートを切りましょう



梅雨も明け気温も高くなり、いよいよ夏となってきました。様々な生物の活動が活発となる中で、病害虫の発生量が最も多い時期でもあります。定植後の生育安定や、収穫期に病害虫を残さないためにも、防除はしっかり行っていきましょう。

## 細菌系、土壌由来の病気に注意！【養液栽培でも発生します！】

培地温度が高くなると、土壌中の病原菌も活発になり、土壌由来の病気発生のリスクが高まります。また、高温条件下で根が張りにくいので、根量の少ない定植後や、根傷みには注意が必要です。栽培前の培地消毒も大切ですが、『しっかりと根を張らせること』『土壌微生物の多様化』を目指していきましょう。

### ● 根張り強化に！

高温期は培地温度を下げたくて多めの灌水をしたり、高温や乾燥によって根傷みすると、その傷口から菌が侵入してしまいます。夏場のスムーズな根張りは、病害軽減にも繋がります。

#### 『フレッシュサンソ液剤』

酸素が根の細胞を活性化させ、根張りを強化します。



#### 『サカタ液肥GB』

高温、乾燥など環境ストレス耐性向上、活着促進に有効です。



### ● 微生物バランスの改善に！

土壌微生物バランスを整えることで、土壌から感染する細菌系、かび系の病気の軽減にも繋がります。土耕だけでなく、有機培地を使用している養液栽培でも有効です。

#### 『キンクロ』

光合成細菌が土壌微生物を活性化し、根量増加に繋がります。養液栽培での事例あり。



#### 『バイオグッドHG』

バチルス菌と有効鉍物の相乗効果で微生物バランスを整えます。

## コナジラミ類の防除は早めの対策を！

年々発生が増加傾向となり防除が難しいコナジラミ類は、化学農薬以外の防除方法も注目されるようになってきました。天敵生物や、害虫を増やしにくくする資材は、生育初期や害虫多発前が有効です。

#### 『バコトップ』(タバコカスミカメ)

コナジラミ類、アザミウマ類を捕食する天敵生物。バンカープランツと導入すると効果的です。



#### 『ベミデタッチ乳剤』

トマトの樹へのコナジラミ類の定着を防ぎます。株が小さい頃からの散布がお勧め！



#### 『福磨』

インドセンダン抽出物、リン酸三カルシウムが植物の免疫機能を強化します。薬剤散布との併用がお勧め！

